

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都工芸繊維大学(松ヶ崎)総合研	階数	地上3F
建設地	京都市左京区松ヶ崎御所海道町1番	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	205 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月	評価の実施日	2013年8月30日
敷地面積	73,385 m ²	作成者	(株)教育施設研究所
建築面積	1,836 m ²	確認日	2013年9月2日
延床面積	5,174 m ²	確認者	(株)教育施設研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	床、外壁、屋根の断熱化や複層ガラスの採用により、断熱性能を高め空調負荷を軽減しました。また、太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの有効利用に配慮しました。	その他 特になし。
Q1 室内環境	建物の外皮(床、壁、屋根)に断熱材を使用し、空調設備による適切な室内環境に配慮しました。また、内装材料は、F☆☆☆☆及びVOC放散量の少ない材料を採用し、空気環境に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 景観地区にあり許可を受けました。空調室外機等を屋上設置し、敷地内の温熱環境に配慮しました。
LR1 エネルギー	太陽光パネルを設置し自然エネルギーの有効利用を図りました。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量をなるべく抑えるよう配慮しました。
Q2 サービス性能	建物内外は段差を少なくし、車椅子での各所への移動が可能なバリアフリー化に配慮しました。各階に多目的トイレを計画しました。建築内部の間仕切りを軽鉄下地間仕切りとし、将来の更新	
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない材料を使用した。節水型便器や自動水栓により節水に配慮しました。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される